

第2回
おおくまハチドリプロジェクト



第2回おおくまハチドリプロジェクト 報告書（～事業化合宿）

プロジェクト概要

◆おおくまハチドリプロジェクトとは

このプロジェクトは、昨年度から始まった全国の学生による大熊町の発展のための企画立案プロジェクトです。

事前勉強会、現地見学会の2回の学びをもとにチームごとに自分たちの強みを生かした立案を行い、最終的に企画発表会にて町役場・関係者の皆様の前で発表を行います。

東日本大震災から10年目の節目に、当時小学生だった学生たちが改めてその歴史を振り返り、新たな角度から未来を見据え、知を集結してアイデアを提案することで、大熊町に対する若者の深い理解と関係人口の創出、また発展のきっかけとなることを目指します。

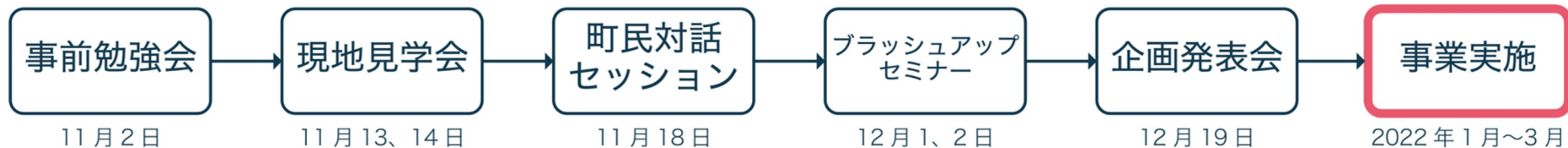
◆概要

- ・実施期間：2021年11月～2022年3月
- ・対象：全国の大学生
- ・参加費：無料
- ・主催：おおくまハチドリ協議会
- ・共催：公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト（企画発表会のみ）
- ・運営：株式会社Oriai
- ・協力：大熊町役場（このプロジェクトは「大熊町知の集結に資する学びの場の形成事業補助金」を活用した取り組みです）

◆実施スケジュール

事前勉強会	11月5日（土）18:00-20:00
現地見学会	11月13日（土）～11月14日（日）終日
住民対話セッション	11月18日（木）18:30-20:30
ブラッシュアップセミナー	12月1日（水）、12月2日（木）※各チーム1時間
企画発表会	12月19日（日）13:00-15:30

プロジェクトの流れ



■メンターについて

おおくまハチドリプロジェクトは、各チームに企画立案に伴走するメンターをつける形で実施。

メンターには各種ビジネスコンテスト受賞経験者やワークショップ作りのプロ、起業家などを迎え、必要なタイミングでチームの会議に顔を出したり、アドバイスや参考資料を提供するなどの方法で関わってもらった。



奥川 季花 (おくがわ・ときか)

1995年生、26歳。
株式会社ソマノベース 代表取締役

災害リスクの低い山づくりを目指し起業。
購入者が山づくりに参加できる観葉植物
「MODRINAE」を発表し、林野庁補助事
業のWood Change Awardにてブロンズ
賞を獲得、その後同製品にてクラウドファン
ディングを成功させる。



高橋 飛翔 (たかはし・つばさ)

1994年生、27歳。
Acroforce株式会社 代表取締役

就活の在り方に疑問を持ち2016年に設立
した学生団体にて1年間東京・名古屋・福
岡に活動を拡大、その後法人化。
5年間で、優秀層10000名の就活・キャリ
ア支援と、優良ベンチャー150社の採用支
援を行なった。現在は複数事業を展開。

■概要

- 日時：2021年11月2日 16:00-18:00
- 場所：オンライン（Zoomにて実施、スタッフは大熊町役場第4会議室にて実施）

■実施内容

- オンラインにて、企画調整課の菅原祐樹課長補佐・木村さんと参加者をつなぎ大熊町についてのレクチャーを行なった。
- 大熊町の再生に関わっているUR都市機構の岩田さん、伊比さんにも会社での取り組みや、立案に向けた考えるポイントを教えていただいた。

■タイムスケジュール

スタッフ・メンター自己紹介

チェックイン

企画趣旨説明

大熊町について説明（菅原祐樹さん・木村欣央さん）

UR都市機構の皆様より情報共有と立案ヒント


グループワーク①感想シェアタイム

グループワーク②アイディアブレスト

チームごと発表

今後の流れ

企画発案のコツ



- 地方のもっとも考えやすいお客さま候補は「3パターン」
 - ・地元に住んでいる65歳以上の人
 - ・観光客（外国人観光客を含む）
 - ・インターネットの「匿名者」にいる人
- ▶大事なのは「喜ばせたいひと」とは誰なのかを考えること
- 企画を考えつらい時は
 - ①社会課題解決型
 - 「不便」「不満」「不足」「不安」といった、世の中にあるたくさん「不」を解決すること
 - 例：公共インフラ、交通、医療、介護、教育など
 - ②感動創造型
 - 「楽しい」「感動する」「ワクワクする」を世の中に提供すること
 - 例：観光、外食産業、エンタテインメント事業など
- ▶課題解決と感動創造の融合で「あなただけのアイデア」ができる。

©Okuma 2021 23



大野駅周辺・下野上地区の整備



△下野上地区全体シナリオ
～大熊町復興の核となる拠点～
I. 中長期的復興を担える核の整備
II. 持続的な産業を創出する産業と生活の拠点
III. 先行的整備で周辺市街地の復興に寄与

田大野病院跡 住宅用地(約2ha)
●戸建住宅用賃貸住宅を基本に、一部に複合型、移住者向けの共生賃貸住宅を整備するほか、市民の参加を促しながら時間をかけて最適な整備を図る。

中央産業拠点(約9.3ha)
●商業や研究開発等の企業施設を誘い大熊町が持続的に発展できる産業を生み出すエリア

大野駅西地区(約6.0ha)
●商業交流施設や商業施設を整備し、駅を核に人、人じんを呼び寄せるとし新たな価値が生まれる機会を捉えるエリア

大野駅東住宅エリア(約1.9ha)
●戸建住宅用賃貸住宅を基本に、需要に応じて複合型向けの共生賃貸住宅を整備するほか、隣接する中央産業地区の教育向け住宅用地など、空地を兼ねて一時的に集約した住宅の整備を検討する。

高層住宅エリア(約4.2ha)
●戸建住宅用賃貸住宅を基本に、需要に応じて複合型向けの共生賃貸住宅を整備するほか、隣接する中央産業地区の教育向け住宅用地など、空地を兼ねて一時的に集約した住宅の整備を検討する。

※土地利用は変更手続中の内容であり、決定手続を経て変更となる可能性があります。

16

KUMA・PREとは

駅前の復興事業のために必要な工事監督員の事務所を**まちづくりの活動や実験の場**として活用します

【施設概要】床面積121㎡
※敷地の一部は下野上地区一帯の事業にて整備

【名前の由来】
KUMA・PREでは、駅西地区の開発に先立ち、URが様々な主体と連携しながら、大熊町への人の呼び込みや賑わいづくりに向けて様々な活動や情報発信を展開していきます。これらのキーワードから「KUMA・PRE」と命名

Okuma × UR × PLAYER (新しい手、新しい人、新しい場所) × PLACE (一活動の場) × PreOPEN (スタート地点) × PR (情報発信)

9

現地見学会（合宿）

■概要

- ・日時：2021年11月13日-14日
- ・移動：大型貸切バス（1名現地集合）
- ・宿泊：ほっと大熊
- ・食事：持参、サービスエリア、喫茶レインボー、デイリーヤマザキなどを併用

■実施内容

- ・全員の検温と抗体検査の上、座席数に余裕を持たせ貸切バスで大熊町に訪問した。企画調整課の方々とおおくまleadの皆様のほか、UR都市機構の皆様、キウイ再生クラブのメンバーを兼任されている方などにも来ていただき企画立案にアドバイスをいただいた。合宿型にしたことで話し合い時間が十分に取れてチーム理解が深まり、立案内容も深めやすかった。また外部の方を含む他者への発表が短期間に複数回設けられたことで、ゴールを見据えながら話し合うことができた。町民の声を聞いたことで後の話し合いでも対象者を考慮しやすくなった。

■活動の流れ

- 1日目：帰還困難区域を含む震災遺構を巡り→個々の関心ごとに企画立案チームを編成→企画会議
- 2日目：企画会議→ワンダーファーム見学→おおくまleadの皆様と昼食を兼ねた意見交換会→解散

■1日目の帰還困難区域 訪問場所

- ①ヒラメ養殖場
- ②サンライトおおくま（駐車場より福島第一原子力発電所を見学）
- ③国道6号線沿いの中間貯蔵施設と街並み
- ④旧大熊中学校
- ⑤大野駅周辺の商店街と街並み



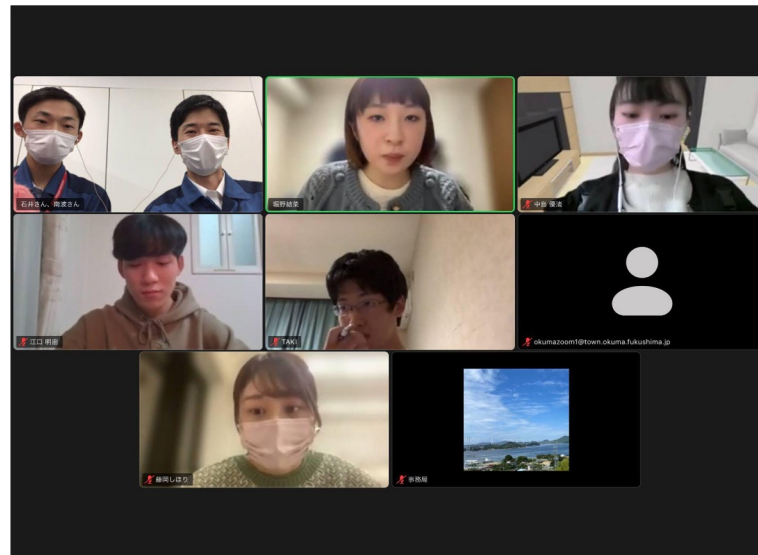
住民対話セッション

■概要

- ・日時：2021年11月18日 16:00-18:00
- ・場所：オンライン（Zoomにて実施、スタッフとゲストは大熊町役場第4会議室にて実施）

■実施内容

- ・事前に、チームごとに企画会議の中で出た疑問、質問をシートに書き込み提出してもらった。
- ・当日はシートをもとに学生からゲストへ聞きたいことを質問し、その場で回答もらった。
企画に対するコメントや反応をいただくだけでなく、実際に大熊町に住む方と話せる機会として普段のライフスタイルや感じている課題、あったらいいなと思う施設などリアルな声を集めたことで、自分たちの仮定の是非も確認できる機会となった。



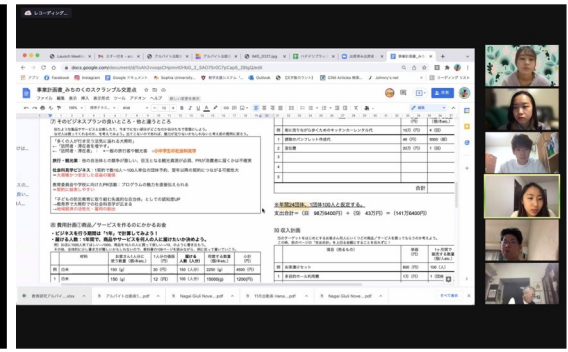
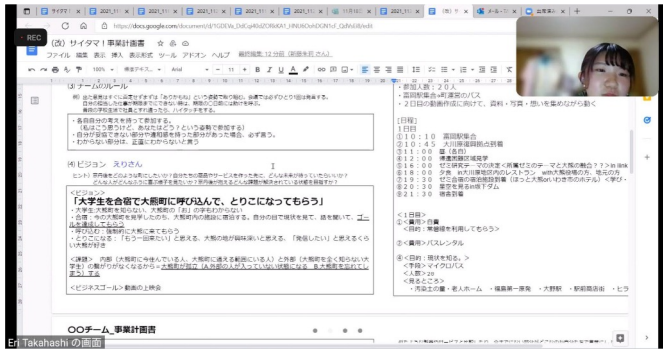
ブラッシュアップセミナー

■概要

- 日時
- 12月1日 (水) 9:00-10:00 想い・記憶をつなげる曲作り
- 12月1日 (水) 13:00-14:00 ナチュラル大熊@古民家
- 12月1日 (水) 19:00-20:00 想いの実現
- 12月2日 (木) 13:00-14:00 おおくまマルシェ
- 12月2日 (木) 17:00-18:00 避難後訓練ツアー
- 12月2日 (木) 18:00-19:00 パレットおおくま

■実施内容

- 講師に公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト代表理事の中川直洋氏を迎え、1チームずつ発表を行なった。
- 発表は本番と同じ7分間で行い、講師とスタッフそれぞれからフィードバックを受けた。その後学生からも聞きたいことを質問し、全体で1時間かけてブラッシュアップを行なった。前回に比べ時間に余裕を持って深いフィードバックを行うことを目的として進めた。



企画発表会 概要

- 日時：2021年12月19日（日）13:00～16:15（開場12:30）
- 会場：Linkる大熊多目的ホール
- 参加費：無料
- 運営：公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト
- 協力：株式会社Oriai、大熊町役場
- ゲスト：農業委員会 会長 根本さん
おおくまleadの皆様（後藤勝さん、鈴木州治さん、佐藤亜紀さん）
UR都市機構社員の皆さま（岩田萌さん、伊比友明さん）
東京電力の皆様（渡邊伸さん、桐生有朋さん、石井大翔さん、南場和希さん）
- 役割分担

審査員	おおくまハチドリ協議会 会長：吉田学（よしだまなぶ）様 企画調整課：永井誠（ながいまこと）様 産業課：愛場学（あいばまなぶ）様 生活支援課：石田祐一郎（いしだゆういちろう）様 教育総務課：菅井優士（すがいゆうじ）様 公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト：中川直洋（なかがわなおひろ）様 株式会社Oriai：松井大介（まついだいすけ）様
ディレクター	大浦佐和
司会	大久保碧
スライド	仁井ひな
音響	阿野真由香
介添	大浦佐和



■ 審査基準

審査員には、以下の観点から各チームを合計100点満点で評価していただいた。

- ①共感性（多くの方が応援したくなるか）
- ②社会性（実現されれば社会がより豊かになるか、SDGsの観点から）
- ③ビジネスモデル（ビジネスとして成立するか・実現可能性は高いか）
- ④プレゼンスキル（話し方・スライドの完成度・態度）

※以上4項目を、各25満点中何点を付けたか、記入いただいた。

※審査方法

- ・司会の合図で審査員室に移動
- ・まずは全員の審査シートを見せ合い合計点を算出
- ・合計点を見た上で、各審査員の評価を述べていき、更なる加点があれば行う総合的な観点でグランプリを決定



■チラシ・タイムスケジュール



第2回 おおくまハチドリプロジェクト 企画発表会

わたしたちが大熊に想うこと、わたしたちにつくれる大熊の未来のこと。

12/19 (日)

日時：13:00～15:30
場所：linkの大熊 多目的ホール

プロジェクト概要

おおくまハチドリプロジェクトは、昨年度初めて開催した、学生による大熊町への企画立案プロジェクトです。
東洋館を中心に企画から集まった7名の高校生・大学生たちが実際に勉強会をした上で「希望地域別に1日2日で滞在し、チームごとにさまざまなアイデアを出し合っていました。」
昨年度以上に本気度を上げ、実行まで見届けて手を挙げたメンバーたちが、2ヶ月間におよぶ事業計画を練った成果を、皆様には是非ご覧いただきたいと考えています。

●発表事業一覧

- 「想いの実現」
- 「パレットおおくま～色と音の溢れるまち～」
- 「おおくまマルシェ」
- 「ナチュラル大熊 @ 古民家」
- 「遊離“後”訓練ツアー」
- 「歌い継がれるテーマソング作り」



ヒラメ養殖場と近隣地域の見学の様子



福島第一原子力発電所の見学の様子



大熊町役場でのワークショップの様子



チーム分けワークショップの様子



活動の流れ

希望地域・町内
案内していただく上で
企画を立案していきます。

```

    graph LR
      A[事前勉強会] --> B[現地見学会]
      B --> C[町民対話セッション]
      C --> D[ブラッシュアップセミナー]
      D --> E[企画発表会]
      E --> F[事業実施]
      style F stroke:#f00,stroke-width:2px
    
```

11月2日 11月13、14日 11月18日 12月1、2日 12月19日 2022年11月～3月

主催：おおくまハチドリ協議会（大熊町知の集結に資する学びの場の形成事業補助金を活用しています）
共催：公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト お問い合わせ：info@orai.jp

タイムスケジュール

イベントは以下のような流れで進行していきます。入退場は自由ですので、好きな時間にご来場ください。
※12:30より開場しています。

13:00	13:00～13:17 オープニングコンテンツ 開会挨拶、オープニングVTR、企画趣旨の説明	
13:15		
13:30	13:20～ ① おおくまマルシェ 営業再開を盛り上げ首都圏と大熊町をつなぐマルシェ開催	
13:45	13:35～ ② 記憶・想いを繋げる曲づくり TikTokを活用した全国規模オーディションで子どもたちも歌い継ぐテーマソングを決定	
14:00	13:50～ ③ 想いの実現 大熊町を学びの町に位置付け大学のゼミ合宿を誘致	
14:15	14:15～ ④ ナチュラル大熊@古民家 ありのままの大熊を残す資料館と季節のイベントで町内外から人が集まる拠点に	
14:30	14:32～ ⑤ 遊離“後”訓練ツアー 小中学生の社会科見学の目的地として「訪れる意味」に溢れた町へ	
14:45	14:44～ ⑥ パレットおおくま～色と音のあふれるまち～ 新進気鋭の芸術学生が長期滞在するアートフェスで大熊町に色彩と音を取り戻す	
15:00	審査・休憩時間	
15:15	15:15～15:30 結果発表・表彰式・講評・閉会 本大会のグランプリを決定します	
15:30		
15:45		

審査員の皆様

事業プランを実際に町で行なっていくことを視野に入れながら幅広い可能性を見据えてコメントいただくため、町内外からお集まりいただきます。

- 審査員長
おおくまハチドリ協議会会長 吉田 亨氏
- 審査員
大熊町役場 企画調整課 課長 永井 誠氏
大熊町役場 産業課 課長補佐 愛場 孝氏
大熊町役場 生活支援課 課長補佐 石田 祐一郎氏
大熊町役場 教育総務課 課長 青井 優士氏
公益社団法人ジャパンチャレンジャープロジェクト 代表理事 中川 直洋氏
株式会社Orai 代表取締役 松井 大介氏

審査基準

審査員の皆様には、各チームの発表をそれぞれ合計100点満点で評価していただきます。

- ① 共通性（多くの人が応援しやすくなるか）
- ② 社会性（実現されれば社会がより豊かになるか）
- ③ ビジネスモデル（ビジネスとしての実現可能性は高いか）
- ④ プレゼンテーション（話し方・スライドの完成度・態度）

※以上4項目を各25満点、合計100点満点で評価いただきます。

※審査方法
・司会の合図で審査員室に移動いただきます。
・まずは全員で審査シートを見せただき合計点を算出します。
・合計点を見たら、各審査員の評価を述べていき、総合的な観点でグランプリを決定します。

■ 「パレットおおくま～色と音のあふれるまち～」



現地見学会で大熊町を歩いた際の

- ・生活音がしない
- ・色彩が少ない

（仕事で大熊にいる人は制服や作業着で私服の人がいない）という気づきをもとに『若者が大熊に集まり、賑やかな声を響かせるプロジェクトがしたい！』と、大学生たちによる芸術祭を計画。

準備段階から実施に芸大生に話を聞いたり、集客は自分たちで担うなど、本気度の伝わるプレゼンがグランプリへ導いた。

コンセプト

色彩と音で溢れ、若者が年に5000人訪れる町

解決方法

どのような方法で解決するのか？

- ①民間の方で大熊町に芸術・文化のシンボルをつくる
→毎年夏にアート祭を開催する
- ②若者の関係人口をつくる
→都会の芸大生を大熊町に誘致し、滞在しながら作品制作

◎類似事例

- ①瀬戸内トリエンナーレ、すみだ向島EXPO2022
- ②黄金町AIR、前橋アーツ、など

パレットおおくま
～色と音の溢れるまち～

- ・日程：2023年8月1日～31日(作品制作)
9月1日～31日(イベント会期)
- ・運営：芸大生10人、芸術監督3人 @おおくまチーム
- ・会場：大熊町全て(古民家、KUMA PRE)
- ・入場料：2000円

10. 「面白いアート祭」はどのくらい興味がありますか？

11. 大熊町を歩いて、どのようなイメージを強く感じますか？

12. 大熊町を歩いて、どのようなイメージを強く感じますか？

13. 大熊町を歩いて、どのようなイメージを強く感じますか？

体験型
美味しい食べ物
明るいアート祭典

クリエイティブ人材の発掘

ビジネスモデル ②

作品制作発表の場を提供

作品を制作する (観光資源)

スポンサー費用

企業

芸大生

クリエイター人材を紹介

費用計画

	単価	一回で用意する数量	合計
作品制作費用	400,000円/人	80%を負担 最大40万円	4,000,000円
関係者生活費 (10人)	3,000円/日	30(日)	900,000円
移動費(20人)	120,000円/台	2(日)	240,000円
謝礼	200,000円/人	3(人)	600,000円
採集費用 資材など	1,000円/人	1000(人分)	1,000,000円
合計			6,740,000円

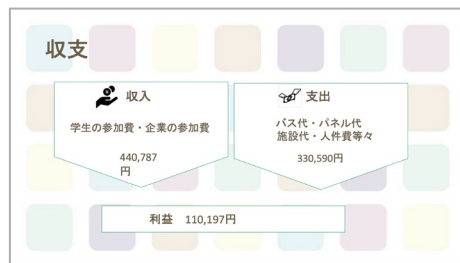
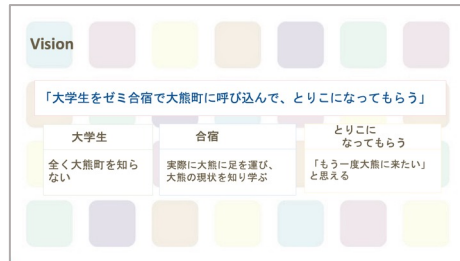
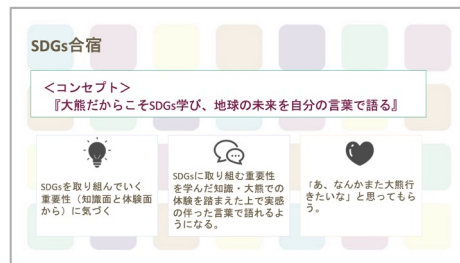
■ 「想いの実現」



自分たちが本プロジェクトで初めて大熊町を知ったことから、「何かしたいけれどできていない若者」が大熊町に来るきっかけを作り「もっと担い手を増やしたい」町とのマッチングを行いたい、とツアー企画を考案。

内容としては、大学のゼミ合宿先として大熊町を提案し、環境問題やテクノロジーを学ぶ学生たちにツアーを敢行。リアルな町の課題や大きなフィールドを生かし、研究につなげてもらうことを発表した。

今すぐにも実行できる可能性の高い、現実味のあるプレゼンが評価された。



「避難後訓練ツアー」



東日本大震災の被害が強く残る地としての大熊町の可能性を捉え直し「大熊町だからこそ学べる防災」を子どもたちに体験してもらおう社会科見学のプランを考案した。

個人の消費意欲に左右され競争も激しい観光分野での再生ではなく、クラスや学年単位で町に訪問してもらえる教育分野での再生を訴えたことが特に印象的であったほか、地震や災害が起きた後の『避難後』をどう過ごすかを学ぶコンテンツの重要性も訴えた。

収支計算の甘さを指摘されつつも、この町で行うことに意味のある事業提案として特別賞に選出された。



ビジョン

- 訪れる価値のある町へ
- 人がたくさん行きかい活気のある町へ
- “防災の町”で全国的名所へ

↑

課題

- 目玉となる観光資源がない
- 活気がない
- 原発のイメージが強い

ターゲット

東北、関東圏の小中学生（10～15歳）

地域の大人との交流も視野に入れておりまずは、市内の方々に協力してもらい、ゆくゆくは町外の若者にも協力して頂けるように仕組み作りを進めていく。


避難後訓練ツアー

① 帰還困難区域
10年前の町を見ることで、
「自分たちの身に実際に起こりうる」という危機感を感じてもらおう。

② 防災グッズ体験
避難所でのいかに生き抜くのかという避難所生活を体験してもらう。

アンケート結果

Q.福島県内で防災に関する社会科見学ができればしたら取り入れたいか。
A.そう思う、とてもそう思う：75%
(山形、福島、宮城、群馬、東京、神奈川)



小中学生の社会科見学＝「個人の消費意欲に依存しない。」

① 大規模かつ安定的な収益
旅行・観光業
：観光客の競争が激しい（目玉となる観光資源が必要）

↓



社会科見学ビジネス
：学校で数千人～百人単位の団体予約
：翌年以降の契約につながる可能性大

② 訴求のしやすさ
旅行・観光業
：観光客が消費意欲に届くかは不確実

↓

社会科見学ビジネス
：教育委員会/学校向けのPR活動に特化（協力を確保しやすくなる）


◎ 防災のまちとしての認知度UP 地域経済の活性化

収支

【支出】		【収入】	
パンフレット作成代	23万	参加費 800円（原価610円）	
宣伝費	20万		
人件費	12万		
計	55万円		計 64万円

利益 9万円
(年間24団体、1団体あたり100人を想定)





『おおくまマルシェ』

農業に関心のあるメンバーが集まったチーム。大熊町の営農再開に向けた動きを知り、都内と福島県内にてマルシェ形式での商品販売を考えた。

放射能に対する不安をどのように払拭するかを考えたながらも、魅力的な商品をどのようにPRするかを試行錯誤し、町民と大学生による新商品企画ワークショップなどの開催もアピールした。

『ナチュラル大熊@古民家』

元々の豊かな自然や昔ながらの大熊町の風景が失われていくことに課題を感じ、登録有形文化財となった渡部家の活用方法を考案した。ナチュラルな大熊町の魅力を存分に生かし、一度は大熊町を離れた人々も訪れやすい、イベント企画が多数行われる資料館としての再オープンを提案。審査員からは他の伝承館との差別化の懸念点がコメントされた。

『記憶・想いを繋げる曲作り』

震災当時の気持ちは良い意味でも悪い意味でも少しずつ忘れていってしまう、との町民の声や、大熊中学校で見た当時の学生たちの想いを知り、残していきたい記憶を現代らしく歌に乗せて伝えていくオーディションを企画。TikTokクリエイターを誘致することで若者の認知を広げることを目指し、震災遺構ツアー／音楽ライブ／オーディションを一連のプロジェクトにまとめ上げた。

開催場所：首都圏
 ・東京などの首都圏での開催
 有力候補①：浅草！ふくしま(東京) とのコラボ
 概要：東電が主役で福島の特産品を首都圏の様々な駅で販売
 主な日程：関東圏の主要な駅で行うので幅広い年齢層の利用者が多く、福島に関心を持ってくださる人が多く見込めます
 開催地：大宮駅、浦和駅、成田駅、目黒駅、新小岩駅、高円寺駅、西国分寺駅、川崎駅、北千住駅、王子駅
 開催日：開催日～5日
開催日、会場など変更した場合は、主催者で発表資料に追加掲載して、2週間前には、関係者に発表資料を送付する。

実際に大熊町に足を運んでもらうための仕掛け
 HUMAブレ、大熊町の地産資源を活用したツアーの企画
 実行事例
 『大熊フードキャンプ』
 ・日本酒プロジェクト支援者を対象として実際に大熊町に足を運んでもらう、和を知ってもらい大熊を好きになってもらう目的で開催した。
 マルシェを通じて繋がりを持つコアターゲットに向けて、ツアー企画を告知し、実際に現地に来てもらう。

事業内容
 【概要】
 使われていない古民家を活用して大熊町に関する遊覧館をオープンする。高小舎・蔵の活用や大熊町内外の交流イベントなどでも人を集める場にする。

【イベント案】
 ・「智で作り上げるおおくまミュージアム(仮)」
 ・修繕イベント
 ・ミニキャンプ(キャンプファイヤー)
 ・季節毎のイベント
 例) 古民家であるクリスマスパーティー、ハロウィンイベント、お花見、餅つき
 ・古民家マルシェ(農業チームとの連携も視野に入れる)
 ・ヨガ
 ・学生を呼んだワークショップ

大熊出身の方のお話を通じて

課題

- 大熊出身という共通点を持つ町民に集ってもらう
- 大熊町で暮らした思い出や、大熊町で暮らす楽しさを伝える
- 大熊町で暮らした思い出や、大熊町で暮らす楽しさを伝える
- 大熊町で暮らした思い出や、大熊町で暮らす楽しさを伝える

仮案

- 大熊町で暮らした思い出や、大熊町で暮らす楽しさを伝える
- 大熊町で暮らした思い出や、大熊町で暮らす楽しさを伝える
- 大熊町で暮らした思い出や、大熊町で暮らす楽しさを伝える

企画の詳細

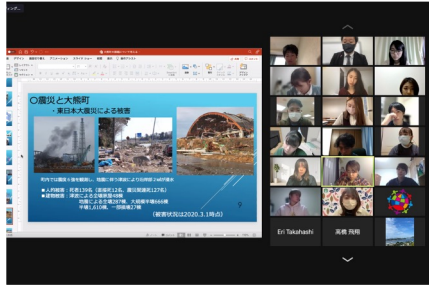
オーディション
 公募の公開

一般投票
 大熊町の最新情報

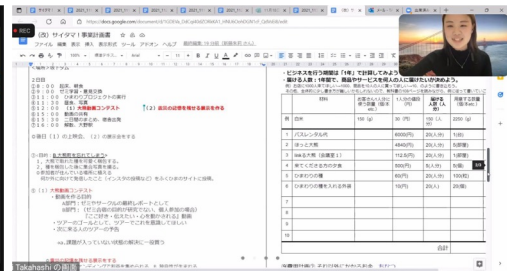
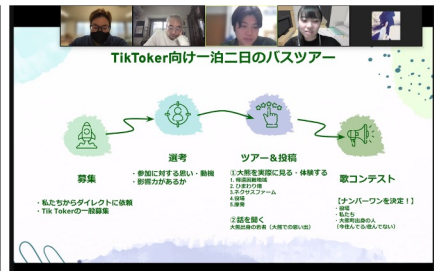
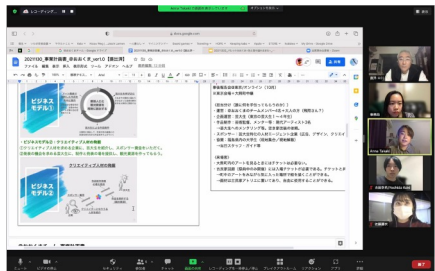
O'You Tube
 ・参加者募集
 ・PV、楽曲、1曲目の作成の様子
 ・2曲目、3曲目の作成の様子
 ・審査発表

→人気楽曲

活動写真



活動写真



■事業化合宿

- ・日時：1月5-6日
- ・場所：新大久保
- ・参加メンバー：古民家（1名）、マルシェ（2名） 想いの実現（3名）、パレットおおくま（2名）
- ・内容：1泊2日で行い、改めてメンバーの自己紹介を行なった上で、各チームごとに3月19-20日にかけて行う本番に向けた話し合いを行なった。事業計画書を新たに書き込む形で行い、コンセプト、収支計画、集客方法などについて考えた。

